

完全なる脚本

ニューロエイジの人気ミステリー・ホロドラマ『トゥルース』シリーズ（『BTD』p7）を舞台背景に取り扱った、一風変わった探偵モノ。虚構の完全犯罪が、現実^{リアリティ}に牙をむく。
(掲載日：2017.6.27)

プレアクト情報

PRE-ACT INFO

■シナリオ基本情報

▼作者

あるばがど (twitter : @Alba_gard)

▼プレイヤー人数

2～4人

▼想定プレイ時間

4～5 時間程度

▼シナリオタグ

ストリート、探偵もの、ドラマ『トゥルース』シリーズ

●このシナリオについて

本シナリオは探偵ものドラマの脚本を取り扱ったシナリオだ。本格的な推理を行うミステリーものではなく、あくまでもミステリー風味の味付けがされているストリートシナリオである。

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。

▼使用経験点

0～50 点程度

▼達成値制限

制限なし。ゲストの最大達成値は21である。ただし、支援によりこれを超えることがある。

▼RL が使用するサプリメント

「TNX」

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、アクトのイメージを膨らませるため、以下のアクトトレーラーを読み上げること。これはアクトのイメージを膨らませるのに役立つ。

ニューロエイジの人気ミステリドラマ『トゥルース』シリーズ。

ホログラムの名探偵の活躍に、人々は胸を躍らせ、惜しみない喝采を送る。

その華々しい舞台の裏側には、シナリオライター達の苦悩があった。

彼らはトリックの考案に命を捧げ、タイピングに情熱を注ぐ。

すべては虚構^{フィクション}の世界のために。

しかし、もしもそのシナリオが、現実^{リアリティ}に牙をむいたとしたら……。

トーキョーNOVA THE ACCELERATION

『完全なる脚本』

かくて、運命の扉は開かれた。

■キャスト作成

ブレイクシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。

『①フェイト』：不屈の探偵

（『TNX』P83、『HDB』P160）

『②イヌ』：正義の猟犬

（『TNX』P84、『HDB』P161）

『③トーキー』：遊撃記者

（『TNX』P89、『HDB』P163）

『④ニューロ』：ニューロキッズ

（『TNX』P98、『HDB』P168）

●プレイヤー人数が4人以下の場合

プレイヤーが3人場合は『④ニューロ』を抜くこと。

プレイヤーが2人場合は、さらに『②イヌ』『③トーキー』のどちらかを抜くこと。

●必要な神業

ゲストが使用する即死系神業だけでキャストが死亡することを防ぐため、キャスト全員で3個以上（3人以下の場合は2個以上）の防御系神業が必要となる。

また《真実》に使用方法が想定されている。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する社会技能は、〈社会：ストリート、企業〉などである。

■キャスト間コネクション

キャスト間のコネは以下の通りに取得する。

『①フェイト』→『②イヌ』→『③トーキー』→『④ニューロ』→『①フェイト』

アクトハンドアウト

各キャストには右記の設定が推奨・あるいは追加される。
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

各キャストには、以下の設定が推奨・追加される。

『①フェイト』：フリーランスの探偵
『②イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課
『③トーキー』：フリーランスの記者
『④ニューロ』：フリーランスのハッカー

①推奨スタイル：フェイト

SCENARIO HANDOUT

コネ：テリーズ

推奨スト：理性

テリーズはホロドラマ脚本家志望の女の子だ。かつてはよくキミの探偵事務所に取材に来ていたものだが、彼女がプロデビューを果たしてからはずっと会っていない。そんなある日、キミのポケットロンに突然のコール。懐かしい彼女の声、しかし――
「助けてください。わたし、人を殺してしまったんです……！」そして、切れた。

【PS：テリーズを救う】

②推奨スタイル：イヌ

SCENARIO HANDOUT

コネ：『①フェイト』

推奨スト：外界

キミはブラックハウンドの捜査官だ。新麻布十番街で起こった密室殺人事件の捜査は行きづまっていた。誰が、なぜ、どうやって殺したのか……すべてが謎。このままだと事件は迷宮入りだ。そこでキミは名探偵『①フェイト』にコンタクトをとることに決めた。

【PS：密室殺人事件を解決する】

③推奨スタイル：トーキー

SCENARIO HANDOUT

コネ：エドガー・ディアストーカー

推奨スト：外界

今回、チャンネル99から依頼されたのは、あの探偵ドラマ『トゥルース』シリーズの人気脚本家、エドガー・ディアストーカーへの取材だ。しかし彼がインタビューの席に連れてきた新人脚本家の様子が、どうもおかしい。本当にエドガーは、ただの脚本家なのだろうか？

【PS：エドガー・ディアストーカーの秘密を暴く】

④推奨スタイル：ニューロ

SCENARIO HANDOUT

コネ：カーロス・マウリシオ・ダ・シルバ

推奨スト：理性

ファントムマスク・ケース——それは世界各地で起こっている未解決事件。犯人はきまって謎めいた怪人にふんし、まるでホロドラマのような劇場型犯罪を成し遂げる。この怪人の仮面を暴いてほしい……裏社会のフィクサー、カーロスはそう話を持ちかけてきた。

【PS：ファントムマスク・ケースの謎を解く】

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

人気探偵ドラマ、『トゥルース』シリーズ。近年、そのシリーズの脚本を一手に引き受けているのが世界最高のミステリ作家集団、フーダニット(*1)だ。しかし、彼らには裏の顔があった。フーダニットは自らが考案した犯罪計画を商品として、世界中の非法組織に販売していたのだ。

駆け出しの脚本家テリーズは、フーダニットの代表、エドガー・ディアスターカーによってその才能を見出され、『トゥルース』シリーズの脚本を手伝うようになる。しかし、エドガーは、彼女のトリックづくりの才能を、犯罪計画の立案という形で、利用しようとする。

エドガーのいうがままに犯罪計画をつくってしまったテリーズは、『①フェイト』に助けを求める。キャスト達は新麻布十番街で起こった殺人事件の真相を探るうちに、フーダニットのビジネスに気づく。

キャスト達がエドガー・ディアスターカーを倒し、テリーズを救ったならばシナリオは終了する。

(*1) フーダニット

Whodunit (Who done it?)。意味は「誰がやったか」。犯人の解明を重視するミステリを指す用語に由来する。『ビハインド・ザ・ダーク』収録の同名のアウトフィットと、関係はない。

■クライマックスへの条件

「●イベント5：完全犯罪オークション」の後、クライマックスになる。

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング1:今週放送の『トゥルース』

ルーラーシーン

登場：不可

◆解説

シナリオの開幕となるルーラーシーン。ミステリドラマ『トゥルース』シリーズの一場面となる。

◆描写

そこは雪に閉ざされた山荘だった。

窓の外では、吹雪が世界のすべてを覆い尽くしている。リビングに集まった人々は不安そうに互いの顔をうかがっている。

▼セリフ：集められた容疑者達

「いったい、こんなところに我々を集めてどうするつもりかね」

「もう5人も殺されてるんだ。外の吹雪はいつまでたってもやむ様子はない。あの殺人鬼はまだこの山荘の中をうろろろしているんだぞ！ 今も我々を狙っているかもしれない……」

▼セリフ：名探偵

「諸君、静粛に！」

「古いことわざはこう言います。『真実は人々を傷つけるものはない』と。しかし、傷つくことをおそえて、真実を遠ざけるなどわたしはごめんです」

「それでは、謎解きとまいますように」

◆結末

名探偵のセリフとともに『トゥルース』のタイトルロゴが浮かびあがる。シーンを終了する。

●オープニング2：密室殺人

シーンプレイヤー：『②イヌ』

登場：不可

◆解説

『②イヌ』のオープニング。グリーンエリアの殺人事件現場で、レイと会話する。レイは事件が手詰まりであることを嘆き、『①フェイト』に依頼することを提案する。

◆描写

グリーンエリアの高級住宅街、新麻布十番。事件はその一角にあるマンションで起こった。

被害者は、部屋の借り主であるCFCのエグゼク。壁には血文字で「ニューロエイジの奇術師」と書かれている。

キミの隣に立っていた暴走課長レイが、しかめっ面でうめき声をあげた。

▼セリフ：レイ

「いったいなんなんだこの事件は。現場は密室、容疑者には全員アリバイあり。おまけにこのご大層な名乗り文句ときたまんだ」

「仕方がない。こうなりや、またあいつに頼るしかないか……イヌとしてはしゃくだけど、このまま迷宮入りになるよりはずっといい。ま、もともと頭脳労働はオレ達ブラックハウンドの仕事じゃないしな！(*2)」

「『②イヌ』……これで、あいつを呼んできてくれ。オレのポケットマネーだ」

(*2) 頭脳労働はブラックハウンドの仕事じゃない

レイのごく個人的な考えである。メモリが聞いたら、怒りくるうだろう。

◆結末

レイは『②イヌ』に1ゴールド(5報酬点)を手渡す。これは『①フェイト』と分配することを想定している。また、『②イヌ』は[犯行現場のアドレス]を入手する。シーンを終了する。

●オープニング3：火星人と怪人

シーンプレイヤー：『④ニューロ』

登場：不可

◆解説

『④ニューロ』のオープニング。カーロスに呼び出された『④ニューロ』が、依頼内容を聞くシーン。カーロスはファントムマスク・ケースの解明を依頼する。

◆描写

ストリートのナイトクラブ。カーロスはお気に入りのテキーラをあおっている。「このテキーラは、俺の故郷の酒によく似ている。火星の味だ」

カーロス・マウリシオ・ダ・シルバ。火星から来たと自称する男。真偽は誰も知らない。だが、やつは腕利きのフィクサーで、仁義に反する仕事はしない。それだけわかっていれば、じゅうぶんだ。

▼セリフ：カーロス

「なあ、お友達。ファントムマスク・ケース……って聞いたことあるかい」

「最近、世界各地で起こってる劇場型犯罪。まるでミステリドラマみたいに、犯行予告出して、怪人の名前を名乗ったりするのさ」

「気取ったやりかただが、今のところそのすべてが迷宮入り。すべての事件の犯人が同一人物なのか、それとも相互にまったく関係のない事件なのか。それさえわかってない」

「だが、頼りにならないケルビムに、業を煮やした被害者の遺族達が、俺に話しを持ちかけてきた。真相を突き止めてほしいってな」

「世界各地で起こった事件を調査する、えらくほねが折れる仕事だ。だが、あんたならN◎VAにいながらにして世界中を飛び回れる。そこにウェブがあるかぎり」

「どうだ。やれるかい？」

◆結末

カーロスは『④ニューロ』に1ゴールド(5報酬点)を手渡す。『④ニューロ』が調査を開始したなら、シーンを終了する。

●オープニング4：ドラマの終わり、現実の始まり

シーンプレイヤー：『①フェイト』

登場：不可

◆解説1

『①フェイト』のオープニング。アマチュア時代のテリーズとの回想シーン。ここで語られるテリーズのミステリの執筆動機は、クライマックスへの伏線となる。

『①フェイト』がテリーズの脚本を読むところで、RLは〈知覚〉もしくは推理を行うのに適切と思われる技能で、判定を行わせてもよい。難易度は8。成功したならば、『①フェイト』は作中の謎を解くことができる。

◆描写1

探偵というものは、世間的にはどうやらロマンのある職業らしい。世のミステリ作品は、いつもキミ達を主人公にして、波乱万丈なドラマを紡ぎだしている。

テリーズも、そうした探偵の世界に憧れをもつ女の子だった。ホロドラマの脚本家を目指す彼女は、キミの事務所に幾度も押しかけてきた。どうやら取材のつもりらしい。

▼セリフ：テリーズ

「あ、あのっ！ 新作の脚本が書き上がったんです。『①フェイト』さん、読者第一号になってもらえませんか……？」

「こ、今度のトリックは自信作なんです。『①フェイト』さんにだって真犯人は当てられないと思います！」

〈〈知覚〉判定に成功〉「ええっ!? な……なんで、わかっちゃうんですか!?!」

〈〈知覚〉判定に失敗〉「ついにやりました……。名探偵『①フェイト』さんにも解けないトリックをつくりだしたんです！ あ、そ、それとも……ひょっとしてトリックやっぱりちょっと無茶すぎました？ 伏線足りませんでした!?!」

「でも……わたしの自信作も、『①フェイト』さんの体験談のリアリティには、とてもかなわないません」「恋愛ドラマも胸躍るアクションもいいですけど、わたしは探偵ドラマがいちばん好きです。『トゥルース』シリーズなんてもう大好きで、過去シリーズまで全部見てます」

「名探偵は、正義の味方なんです。警察でも捕まえられない悪の犯罪者を、その推理力ひとつで見つけだす……それって、とってもカッコイイと思うんです！」

(※3)

◆解説2

舞台は現在に移る。テリーズから突然にコールが来る。電話口の彼女は、ひどく狼狽している。一連の会話の後、突然に電話は切れる。(※4)

(*3) とってもカッコイイと思うんです！

これがテリーズがミステリ作品を好んで書く理由である。これはエドガーに洗脳された後のテリーズの発言と矛盾するものであり、洗脳を解く鍵となる。

(*4) 電話は切れる

現在のテリーズは、フータニットのメンバーに常に見張られている。また、エドガーの教育(ルール処理上はエドガーの〈タイムリー〉の効果ということになる)によって、彼に逆らうことができない精神状態になっている。監視の目を盗んで『①フェイト』に電話をかけた彼女だが、人の気配に気づいて、唐突に通話を切ってしまう。

◆描写2

シリーズがプロデビューを果たしたのは、その後のことだ。以来、シリーズがこの事務所を訪れることもなくなった。

……ボケットロンのコールが、キミを現実の世界に引き戻した。相手を確認して、キミは息をのんだ。シリーズのアドレスからだ。

▼セリフ：シリーズ

「『①フェイト』さん……助けてください。わたし、人を殺してしまったんです」

「わたし、こんなことするつもりじゃ……いやです。お願い、助けて……」

◆結末

そこで突然、電話は切れる(4)。シリーズの身にいたいなが起こったのだろうか。シーンを終了する。

●オープニング5：名探偵の創作者

シーンプレイヤー：『③トーキー』

登場：不可

◆解説

『③トーキー』のオープニング。『③トーキー』がエドガー・ディアストーカーにインタビューをするシーン。そこにはシリーズも同席している。

登場しているキャストは〈知覚〉もしくは〈心理〉で難易度10の判定を行う。成功するとシリーズがなんらかのマインドコントロールを受けていることがわかる。失敗しても、シリーズの目がうつろであることはわかる。

◆描写

場所はホワイトエリアのレストラン。エドガー・ディアストーカーは笑顔でキミを出迎えた。彼ほどの売れっ子となれば、こうした取材は慣れっこなのだろう。

彼のかたわらには、ドレスを着た若い女性の姿がある。

▼セリフ：エドガー・ディアストーカー

「こんにちは、『③トーキー』さん。私はエドガー・ディアストーカー。『トゥルース』シリーズの脚本を担当しています」

「ああ、ご紹介が遅れました。彼女は私が目をかけている新人で、シリーズといえます。まだ若いのが、実によい本を書く。なんでもあの名探偵『①フェイト』の薫陶を受けたそうですよ」

「ところで、『③トーキー』さん。あなたはミステリにおける探偵と犯人、どちらの役回りがより好きですか？」

「私も昔は、犯人のトリックを打ち破る、探偵の痛快さに喝采をあげたものでした。しかし、作品をつくる側になってみると、視点もかわってきます。人生を捧

げてつくりあげたトリックが、簡単に覆されてしまう……たまったものではありませんよ」

「最近ではこの完璧なトリックをいいたいどう探偵に解かせればよいものか、苦心してしまうこともあります。しかし、真実が明るみにでなければ『トゥルース』シリーズとはいえない。いやいや、これは難題ですよ！」

「さまざまな才能との出会いは、私をわくわくさせてくれます。『トゥルース』シリーズは実に刺激的な現場です」

▼セリフ：シリーズ

「はじめまして、シリーズといえます。まだ、かけだしですが、『トゥルース』シリーズの脚本のお手伝いをさせてもらっています」

「ディアストーカー先生の脚本は完全で完璧でパーフェクトです。悪役のあの言語道断の悪辣さ。自分が犯罪を成功させている気分になります。それがとても快感なんです」

◆結末

エドガーとの食事は、なごやかな雰囲気が終わる。しかし、澁刺としたエドガーとは対照的に、シリーズはどこかうつろな表情をしている。彼女のことが、妙に気にかかった。シーンを終了する。

チャンネル99は必要経費として3シルバー（3報酬点）をすでに支給している。『③トーキー』が調査を開始したなら、シーンを終了する。

No Image

■シリーズ

カブキ●、タタラ◎、ミストレス

▼設定

「正義の探偵が、悪をくじく……その姿にわたしは憧れたんです！」

かけだしのドラマ脚本家。18歳の女性。『トゥルース』シリーズを手がけるエドガー・ディアストーカーに才能を見いだされた。しかし、そのために脚本を犯罪計画として販売するというフーダニットの裏事業に荷担することになってしまう。

育ちのよさを感じさせるおだやかな雰囲気とは裏腹に、『①フェイト』のもとに押しかけるなど行動はかなり大胆。特にミステリのトリックづくりに天才的な才能を見せるが、本人はそれよりも、勧善懲悪的なドラマ展開にこだわりを持っているようだ。

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

●イベント1：ペーカー街の下宿

条件：リサーチフェイズ最初のシーン

シーンプレイヤー：『②イヌ』

登場：『①フェイト』の事務所に準ずる

◆解説

『②イヌ』が『①フェイト』に協力を依頼するシーン。『①フェイト』は自動登場となる。

◆描写

そして、キミは『①フェイト』の探偵事務所へとやってきた。このままでは密室殺人事件は迷宮入りしてしまう。ぜひとも協力を仰がなければならない。

◆結末

キャスト同士が情報を交換したなら、シーンを終了する。

●イベント2：現場検証

条件：『①フェイト』が『犯行現場のアドレス』に向かった

シーンプレイヤー：『①フェイト』

登場：(社会：警察、企業) 10 / SR：グリーン

◆解説

『①フェイト』が新麻布十番街の殺人事件現場を調査するシーン。

『①フェイト』はキーワードリンク【『①フェイト』の現場検証】を得る。望むなら、『①フェイト』はこのシーン内で即座にこのキーワードリンクについて情報収集を行ってもかまわない。

◆描写

新麻布十番街にある高級マンション。犯行現場は、ブラックハウンドによって封鎖されていた。

キミが入っていくと、弱りきった顔のレイが出迎えた。

▼セリフ：レイ

「よう、『①フェイト』。来てくれたんだな」

「オレ達にはなにがなんだかさっぱりだ。いくら手がかりをたどっても、ちっとも犯人にたどりつかない。法の番犬としてはくやしいかぎりだが、あなたの助けが必要だ」

◆結末

『①フェイト』が調査を終えたなら、シーンを終了する。

●イベント3：完全なる脚本

条件：【事件の犯人】の情報をすべて入手した

シーンプレイヤー：『①フェイト』

◆解説

『①フェイト』のポケットロンに、エドガーからコールがある。一連の会話の後、『暴露』を使用し、『①フェイト』が密室殺人事件の犯人であるという虚偽の報道を行う。『①フェイト』に社会ダメージ【抹殺】を与える(5)。

◆描写

ポケットロンにコールがあった。テリーズのアドレスからだ。しかし、電話口から流れ出したのは男性の声だった。

▼セリフ：エドガー・ディアストーカー

「やあ、名探偵。キミの活躍はを見せてもらったよ。テリーズから聞いてはいたが、キミの推理力は想像以上だ。心からの賛辞を送ろう」

「こんな話を聞いたことはないかね？ ミステリ小説やドラマでは、本当に実現可能なトリックは描かれない。模倣犯を防ぐためにどこかに欠陥を残すと……」
「なら、本当に実現可能な脚本が完成したら、そのとき、作家はいったいどうすると思う？ 犯罪計画販売。それが我々のビジネスというわけだ」

『『トゥルース』シリーズとして実際に放送されているトリックは、我々にとって商品にならなかった欠陥品。とるにたらない出来損ないにすぎない』

「キミが解決した『シナリオ：ニューロエイジの奇術師』は、新人のサンプルとして格安で販売した不完全な脚本にすぎない。テリーズもこれからもっと腕を磨けば、いずれより完全な脚本が書けるようになる」
「キミは優秀な探偵だ。だが、次のシナリオはどうか。なにしろこのストーリーの犯人は、キミ自身だからね」
(※『暴露』を使用し、『①フェイト』に【抹殺】ダメージを与える)

▼セリフ：SSSの警官

「手をあげろ！」

「観念するんだな。ニューロエイジの奇術師。監視カメラの映像は、すでに世界中に流れているんだぞ」
(『②イヌ』が『①フェイト』をかばった)「我々はブラックハウンド本部の要請で動いているんです。かくまうなら、あなたも共犯になりますよ」

◆結末

「『シナリオ：名探偵の殺人』を使わせてもらった。さて、お手並み拝見といこうか」笑い声とともに電話は切れる。

このシーンに登場したキャストはキーワードリンク【テリーズの現状】を得る。シーンを終了する。

(※5) 社会ダメージ【抹殺】

エドガー・ディアストーカーの陰謀について証拠をおさえ、彼が首謀者であることを(暴露)したなら、この【抹殺】は治癒される。もちろん(制裁)など他の神業の効果で、治癒してもよい。

●イベント4：真犯人が多すぎる

条件：「●イベント3：完全なる脚本」の直後
ルーラーシーン

登場：不可

◆解説

エドガーは《タイムリー》によって人を洗脳するための脚本をつくりだし、テリーズの意思を掌握する。

◆描写

薄暗い書斎。エドガー・ディアストーカーは手元のファイルをめくりながら、愉快そうに微笑む。

その傍らには、肩をふるわせ、立ち尽くすテリーズの姿があった。

▼セリフ：エドガー・ディアストーカー

「さて、テリーズ。キミの罪は、どうやら『①フェイト』にも知られてしまったらしい。彼（彼女）は誇り高き探偵だ。けっしてキミを許しはしないだろう」

「だが、これでキミも覚悟が決まったのではないかな。私達は探偵の敵。彼らを叩きのめす悪役なのだ……」

「キミの才能を見て、私は震えたよ。キミこそ、私の意思を継げる者だ。ミステリの未来を支えるべき人材だよ」

「私はもっとキミの本気が見たい。『トゥールース』シリーズなどではおさまらない、本当の力が見たいんだ」

▼セリフ：テリーズ

「わたしは、『①フェイト』さんの敵……」

「そうです。わたしはずっと憧れていた、ミステリ作家になれたんです。ためらうことなくありません。完璧なトリックをつくること。わたしの才能はそのためにある……」

◆結末

「これでキミの教育はおしまいだ。迷いを捨てたキミは、もう本物のミステリ作家だ」

エドガーは満足げにうなずくと、手元のファイルを本棚に戻した。ファイルにつけられたタイトルは『シナリオ：真犯人が多すぎる』。

シーンを終了する。

●イベント5：完全犯罪オークション

条件：[完全犯罪オークションのアドレス] に向かった

シーンプレイヤー：『③トーキー』

登場：〈社会：企業、社交界〉10 / SR：ホワイト

◆解説

完全犯罪オークションに潜入するシーン。キャスト達がオークションを観ていると、テリーズがキャストに接触する（*6）。彼女はエドガーのもとまでキャストを案内する。『③トーキー』がいない場合は、他の適切なプレイヤーをシーンプレイヤーとすること。

◆描写

ホワイトエリアにある小さな劇場。そこに黒塗りの車が次々と滑りこんでいく。車から降りるのは、正装の紳士達。仮面で顔を隠しているが、彼らがカタギではないことは、雰囲気から察することができる。

この地で行われるのは、完全犯罪オークション。人の命を売り買いする、この世でもっとも忌まわしい集会だ。

▼セリフ：司会進行

「紳士淑女の皆様、ようこそおいでくださいました。完全犯罪オークション。今回もとびきりの脚本をとりそろえております。皆様のお気に召すことうけあいです」

「最初の商品はこちら。今、世界中で話題沸騰。ファントムマスク・ケースの最新作！『シナリオ：第三宇宙速度の亡霊』さあ、まずは30プラチナムから！」

▼セリフ：顧客達

「ほう、安心と信頼のファントムマスクものか！ ワシはこれでジャマな政治家を10人は始末したが、まったく疑われていないんだ」

「よし、40プラチナムだそう。いや、50プラチナムだ！」

▼セリフ：テリーズ

「……お待ちしております、『①フェイト』さん」

「ディアストーカーさんがお呼びです。ぜひ、顔をあわせてお話をしたいと……。さあ、こちらへどうぞ」

◆結末

テリーズは『①フェイト』や『③トーキー』のことなどまるで気にならず、冷たい表情のまま、キャストを奥へと案内する。

『クロス・ザ・ライン』掲載の追加ルールを採用している場合、[SPS：フーダニットのビジネスを止める（5経験点）]をキャスト全員に渡す。シーンを終了する。

（*6）テリーズがキャストに接触する

もしテリーズが接触する前に、キャストがオークションを止めようとした場合は、エドガー・ディアストーカー達がキャストの前に現れる。そのままクライマックスへと移ること。

■情報収集項目

リサーチフェイズ開始時に調べることが出来る情報項目は以下のとおり。

『①フェイト』：テリーズ

『②イヌ』：密室殺人事件

『③トーキー』：テリーズ、『トゥルース』シリーズ、エドガー・ディアストーカー

『④ニューロ』：ファントムマスク・ケース

◆テリーズ

〈社会：企業、メディア〉〈コネ：テリーズ〉

6 かげだしの脚本家。【エドガー・ディアストーカー】に見出され、『トゥルース』シリーズの脚本を手伝うようになった。

8 特に探偵ドラマを好み、これまでの作品もすべてミステリ。正義の探偵が、悪役のたくらみを見破る、痛快な展開が特徴。

10 テリーズは本人がつけたペンネームで、ミス・テリーズという言葉遊び。

12 デビュー前は『①フェイト』のもとによく取材に訪れていた。現在はエドガー・ディアストーカーのもとに身を寄せ、作家としての教育を受けている。

◆密室殺人事件

〈社会：ストリート、警察〉

8 高級住宅街、新麻布十番街のマンションで起こった殺人事件。被害者はCFCのエグゼク。

10 犯人は壁に血文字で、ニューロエイジの奇術師と書き残している。現場は完全な密室であり、犯行にはなんらかのトリックが用いられたとしか考えられない。

12 『②イヌ』がこの事件を担当している。犯行現場のアドレスを入手する。

14 近年、世界中で起こっている劇場型犯罪、【ファントムマスク・ケース】のひとつ。このままだと迷宮入りは確実だ。

◆『トゥルース』シリーズ

〈社会：企業、メディア〉

6 世界中で人気の探偵ドラマシリーズ。30年以上の歴史をもつ。

8 近年では【エドガー・ディアストーカー】が代表を務める小説・脚本製作会社【フーダニット】が、全面的にシナリオを担当している。

12 最近『トゥルース』シリーズの手口を真似たとおぼしき事件が頻発しており、一部の知識人から批判されている（【ファントムマスク・ケース】）。

◆エドガー・ディアストーカー

〈社会：企業、メディア〉〈コネ：エドガー〉

8 小説や脚本、ノンフィクションなど幅広く活躍する作家。最近では『トゥルース』シリーズのシナリオを担当している。

10 その緻密なトリックづくりは高い評価を受けている。しかしそのリアリティゆえに、エドガー自身の経験をもとにしている。本物の犯罪結社と繋がりがあなど、黒い噂がある。

12 優秀なミステリ作家を集めて、小説・脚本製作会社【フーダニット】を設立した。ミステリ業界の未来を憂いており、己の後継者を探している。

14 ヴィル・ヌーヴに居を構えるが、現在N◎VAを訪れている。なにか大きな仕事にとりかかっているのだという。

◆ファントムマスク・ケース

〈社会：ストリート、警察、メディア〉

8 近年、世界各地で起こっている劇場型犯罪。仰々しいハンドル、怪しげな覆面、現地の風習にからめた見立て殺人といった手法を用いる。個々の事件の関連性は不明。そのすべてが迷宮入りしている。

10 探偵ドラマ【『トゥルース』シリーズ】に同様の手法が頻繁に登場する。そのため、同作に登場する怪人の名前から、ファントムマスク・ケースと呼ばれるようになった。国際警察ケルビムは、同作の模倣犯ではないかと分析している。

12 先日、新麻布十番街で同様の手口の【密室殺人事件】が起こっている。『②イヌ』がこの事件を担当している。

14 世界各地で起こるファントムマスク・ケースの犯人が、同一人物であるとは考えられない。

No Image

▼設定

「金？ 名誉？ そんなものは、私にとってなんの価値もない。私は骨の髄からミステリ作家なんだ」

世界的な作家、脚本家。50歳ほどの男性。特にたしかな知識に裏打ちされた、リアリティのあるミステリ作品で人気を得ている。また取材の副産物である、ノンフィクションの著作でも名高い。

小説・脚本製作会社フーダニットの創設者。しかしその裏側では、犯罪計画を非合法組織に販売する事業を行っていた。

■エドガー・ディアストーカー

タタラ◎●、カリスマ、トーキー

◆フーダニット

〈社会：企業、メディア〉〈コネ：エドガー〉

- 10 【『トゥルース』シリーズ】他、多くの作品を手がける小説・脚本製作会社。特にミステリを専門とし、多くの作家が所属している。
- 12 代表は【エドガー・ディアストーカー】。また『トゥルース』シリーズに登場する【ファントムマスクのモデル】となった人物がメンバーにいるらしい。
- 14 新人育成にも熱心であり、見込みのある新人脚本家、作家を集めて、教育を行っている。【シリーズ】もそうしてデビューしたひとりだ。
- 16 フーダニットは犯罪組織や裏社会のクロマクなどと関係を持ち、大口の取引を行っている。なんらかの非法な商品を扱っているらしい。

◆ファントムマスクのモデル

〈社会：ストリート、警察、企業〉

- 10 常に仮面で素顔を隠した怪人物。かつてストリートで知られた凄腕の義賊。
- 12 一度は逮捕されたが、エドガー・ディアストーカーが手を回して、釈放させた。現在は彼の秘書兼ボディガードとなっている。

◆『①フェイト』の現場検証

〈知覚〉〈コネ：テリーズ〉〈シャーロック・ホームズ〉(*7)

- 8 この状況は、テリーズが以前『①フェイト』に読ませた未発表の草稿とよく似ている。間違いなくテリーズによる計画だ(《タイムリー》を使用している)。しかしテリーズの作品を読んできた『①フェイト』ならば、彼女の作風を手がかりに、真相に到ることが可能かもしれない。
- 14 密室殺人のトリックを暴いた(*8)。『①フェイト』の推理をもとに調査を進めれば、【事件の犯人】を割り出すことができるだろう。

(トリックの内容はプレイヤーが自由に演出してかまわない。迷う場合は密室殺人トリックチャートを参照すること)

◆事件の犯人

〈社会：ストリート、警察〉

- 10 被害者はCFCのグゼクであり、新中華街へのレストランチェーンの展開を担当していた。その過程で中華系マフィア、三合会ともめごとを起こしている。
- 12 犯行を行ったのは中華系マフィア、三合会の構成員だ(*9)。
- 14 三合会は【フーダニット】に多額のキャッシュを支払い、【完全なる脚本】という商品を購入した。

◆完全なる脚本

〈社会：ストリート、テクノロジー〉

- 12 【フーダニット】が裏社会で販売する最高品質のミステリ脚本。
- 14 【『トゥルース』シリーズ】に提供されているシナリオと違い、その犯罪計画は実現可能。いかなる捜査にも耐えうる完全性をもつ。
- 16 商品の性質上、ひとつの脚本はひとりにしか販売できない。そのため、フーダニットは【完全犯罪オークション】を開催し、脚本を競売にかけている。

◆テリーズの現状

〈社会：企業、テクノロジー〉〈コネ：エドガー、テリーズ〉

- 10 【フーダニット】の一員として、【完全なる脚本】の執筆・販売に関わっている。
- 12 テリーズはエドガーが《タイムリー》で執筆した脚本によって洗脳されている。
- 14 テリーズは本心ではエドガー・ディアストーカーの悪事に荷担することを拒否している。彼女の本心を引き出すことができれば、洗脳を解くことができるだろう。
(キャストが4人の場合)しかし、もし洗脳を解こうとしたなら、ゲストの神業によって妨害される可能性がある。

◆完全犯罪オークション

〈社会：ストリート、企業〉

- 14 完全犯罪を実行するためのシナリオを販売するオークション。世界中から多くの顧客が集まる。
- 16 オークションの存在は秘匿されており、信頼しうる顧客にのみ、招待状を出している。
- 18 招待状を都合した(*10)。「完全犯罪オークションのアドレス」を入手する。

(*7) 〈シャーロック・ホームズ〉

〈シャーロック・ホームズ〉を使用する場合は、難易度10ですべての情報を得ることができ。効果が類似するスタイル技能についても、同様に扱うこと。

(*8) 密室殺人のトリックを暴いた

テリーズは我々の理解を超えるトリックを仕掛け、キャストは超人的な推理力でそれを解き明かしている。そのため、具体的にどのようなトリックであったのか、ここに書き記すことはできない。

しかし、名探偵を演じる上で、トリックの描写がないのではさびしいというプレイヤーもいるだろう。プレイヤーはどのようなトリックだったのか、自由に演出してかまわない。
また演出の手がかりとして、ランダムにトリックと犯人を決めるチャートを用意した。(p14) 山札からカードを1～2枚引き、それに応じたキーワードを決定すること。どのようなトリックだったのか想像を巡らせてほしい。

(*9) 中華系マフィア、三合会の構成員

実行犯はエキストラである。この時点で警察が逮捕したことにしてしまっても問題ない。

(*10) 招待状を都合した

キャストが情報操作を可能とする神業もしくは万能系神業をもっているのなら、完全犯罪オークションへの潜入に神業が必要だとしてもよいだろう。

No Image

▼設定

「俺が死んでも、ファントムマスクの伝説は終わらない……」

エドガー・ディアストーカーの秘書兼ボディガード。もともとはミトラス戦争で戦う企業軍の強化兵士で、派手な仮装とパフォーマンズで、敵を攪乱する陽動作戦を得意としていた。退役後は、盗賊稼業で生計を立てるようになる。

『トゥルース』シリーズに登場するファントムマスクというハンドルは、彼の異名のひとつである。

■ファントムマスク・オリジン

カブキ◎、カプト●、カゲ

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●クライマックス1：ミステリのスタンス

シーンプレイヤー：『①フェイト』

◆解説

キャスト達はエドガー・ディアストーカー、そしてフーダニットと対決する。

◆カット進行

カット進行が発生する。敵は以下のとおり。

- ・ファントムマスク・オリジン CS：9
- ・テリーズ CS：8
- ・エドガー・ディアストーカー CS：8
- ・シナリオライター・トループ CS：5

トループの人数は20人とする。

キャスト達を1エンゲージとし、エドガー・ディアストーカーを近距離。ファントムマスク・オリジンとシナリオライターを同エンゲージで近距離。テリーズを中距離に配置する。

エドガー・ディアストーカーはテリーズを《タイムリー》によって洗脳している。これを解除するためには、《真実》によってテリーズの本心を引き出す必要がある(※11)。ただし、ゲストは神業(ファントムマスク・オリジンとテリーズの《チャイ》)を使用して、これを妨害する。

《真実》によって正気にかえったテリーズは、カット進行から脱落する。

◆描写

キミ達はテリーズに案内され、奥の部屋へと通された。そこで待っていたのは、窓からオークション会場を一望しているひとりの男。ミステリー界の重鎮、エドガー・ディアストーカー。

その隣には、『トゥルース』シリーズそのままの仮面をつけた男が控えている。

▼セリフ：エドガー・ディアストーカー

「よく、ここにたどり着いたね。さすがテリーズが選んだ探偵とその仲間達だ」

「どうかね、私のオークションは。多くの者達がここで最高のミステリを購入する。彼らは世界中で、私の作品を上演してくれているのだよ」

「金？ 名譽？ そんなものは、私にとってなんの価値もない。私は骨の髄からミステリ作家なんだ」

「私はミステリを愛し、その発展を心から願っている。そのために私はフーダニットを設立し、多くのライターを支援してきたんだ。だが、私の後継者となるにふさわしい、真の天才にめぐりあうことはできなかった……テリーズと出会うまで、私は失意の中にいたんだよ」

「この子もたしかに最初は世間の常識に囚われていたようだ。だが、もう戻れない。彼女の脚本によって、

こうして人が死んだ。その魅力にあらがえるライターなどいないよ。完全な犯罪計画を考えだす……それにそがミステリ作家の至高の喜びなのだから」

「しかし、困ったものだ。完全なる脚本を解ける人間がいたとしたら、我々の商品は成立しない。つまり、キミ達は私達にとって非常に都合の悪い人間だというわけだ」

「だが、キミ達が我々の仲間になってくれるとしたら話は違う。キミ達の協力が得られれば、我々の脚本はより完璧なものとなるだろう。どうかね？」

(倒れた)「後悔はないとも。私の夢はついにかなったんだ(※12)。私は犯人として、探偵に敗れた。私の愛するミステリの登場人物になれたんだ……『①フェイト』、キミのおかげだ」

▼セリフ：テリーズ

「わたしの考えたトリックは完璧なんです。みんながそれを証明してくれます。それは作家として、とてもうれしいこと……」

(※11)《真実》

洗脳を解除するのに適切であれば、《真実》以外の神業でもかまわない。ただし、ここは『①フェイト』の見せ場であり、シナリオは『①フェイト』が《真実》を使用したものとして記述されている。

プレイヤーが『①フェイト』の《真実》以外での洗脳解除を提案した場合でも、それが他のプレイヤーの楽しみを奪うものであるなら、RLはこれを却下すること。

(※12)私の夢はついにかなった

「犯人のトリックが、名探偵によって破られる」のが『トゥルース』シリーズの約束事だ。誰よりも真摯にミステリを愛し続けた彼は、この結末を望んでいたのかもしれない。



神業の演出

小説・脚本製作会社フーダニットに所属するゲスト達の神業は、演出上は完全なる脚本の効力である。

参考として以下に、神業の演出を例示する。

▼エドガー

《神の御言葉》：『シナリオ：内宇宙(インナースペース)殺人事件』を使用。心理誘導を組み込んだ「殺人の描写」を朗読する。聞く者はそれを自分の実体験だと思ひ込み、精神の死を迎える。読むときの抑揚がコツだという。

《神の御言葉》：エドガーとテリーズの共同執筆脚本『シナリオ：ロング・グッドバイレル』を使用。催眠術を使用して、ゲストの人差し指を銃口と誤解させる。「パン」というかけ声と同時に、対象はショック死する。

▼ファントムマスク・オリジン

《チャイ》：『シナリオ：フーダニット館の殺人』を使用。この洋館に隠されたさまざまなトラップを利用し、キャストの行動を妨害する。準備にかかる費用が膨大なため、オークションで売れ残ってしまった。

《難攻不落》：『シナリオ：アンドロイド殺し』を使用して、いつのまにかゲストがドroidと入れ替わっている。

《不可知》：本人自ら手がけたファントムマスク・シリーズの傑作『シナリオ：ヒーローの研究』を使用。けれんみのあるマスクと振る舞いで相手を幻惑し、懐に入り込む。

▼テリーズ

《チャイ》：フーダニットの手にならない異色の脚本『シナリオ：未発表草稿』を使用。災厄前に書かれたとあるミステリ作家の手になるもので、草稿自体が魔力を秘めている。不可解な怪奇現象を引き起こす。

(※《真実》で本音を聞き出した)「違います……。わたしはミステリを好きなのは、犯罪に美学を感じてるからなんかじゃありません。正義の探偵が、悪をくじく……その姿にわたしは憧れたんです!」
「お願い、わたしの憧れの探偵さん! 悪い人達をやっつけて!」

▼セリフ：ファントムマスク・オリジン

「ディアストーリーカーは俺を救ってくれた。ストリートの盗賊にすぎなかったこの俺を、みんなが憧れるヒーローにしてくれたんだ」

(倒れた)「俺が死んでも、ファントムマスクの伝説は終わらない……」

◆結末

カット進行が終了したなら、シーンを終了する。

エンディングフェイズ

ENDING PHASE

●エンディング1：死に到るスタイル

シーンプレイヤー：『③トーキー』

◆解説

『③トーキー』のエンディング。エドガー・ディアストーリーカーの取材は、チャンネル99の大スクープとなる。結城あやは『③トーキー』の活躍を賞賛する。

◆描写

チャンネル99のオフィス。DAKのスクリーンに、キミが撮影した映像が流れている。

結城あやは満足気にうなずいた。

▼セリフ：結城あや

「……まさしく特ダネだね」

「エドガー・ディアストーリーカー。私も何度かあの人のドラマに出演したことがあるわ。人って、わからないものね……」

「エドガー・ディアストーリーカーは、地位も名誉もお金ももってた。それをぜんぶ捨ててしまったのね。自分のスタイルを貫くために……」

◆結末

『③トーキー』が返事をしたところで、シーンを終了する。

●エンディング2：終わりなき戦い

シーンプレイヤー：『②イヌ』

◆解説

『②イヌ』のエンディング。フーダニットは壊滅したものの、N◎VAでは今日も犯罪が起こっている。

◆描写

アサクサの一角にある古めかしい日本家屋。畳の上に、女の死体が倒れている。

部屋を仕切るふすまには、墨汁を使ってこう書かれている。"Excalibur returns! (エクスカリバー・リターンズ)" (*13)

「なんだこりゃ」

情けない顔で、レイがぼやいた。

▼セリフ：レイ

「……つたく、この街じゃ、いったいどうしてこう毎日毎日、怪事件が起こるんだ」

「ま、わかっちゃいたさ。このN◎VAから悪が消えることはない。現実にはホロドラマじゃない。親玉を倒したからって、ハッピーエンドってわけにはいかないんだ」

「勝ち目のない戦いさ。それでも、やつらを追い続けるのがオレ達猟犬だ。そうだろう?」

◆結末

『②イヌ』が返事をしたところで、シーンを終了する。

●エンディング3：金星人についての見解

シーンプレイヤー：『④ニューロ』

◆解説

『④ニューロ』のエンディング。『④ニューロ』の話聞き、カーロスはその労をねぎらう。

◆描写

カーロスとは、またバーで落ち合うことになった。

火星人はカウンターに陣取って、静かに酒をあおっている。どこからか流れるCDなジャズ……。

▼セリフ：カーロス

「フーダニットの取引相手のリストをたどれば、それぞれの事件の実行犯もすぐに判明するだろう。ここから先はケルビムの仕事だ」

(*13) エクスカリバー・リターンズ

ファントムマスク・ケースは、そのほとんどがフーダニットが糸をひくものだった。しかし、フーダニットが潰えた後、今度はファントムマスク・ケースに影響を受けた模倣犯が、次々に出現する。ファントムマスク・ケースはまだ終わっていないのだ。

「まったく、馬鹿な話だ。完璧な犯罪計画なんて、人生を賭けるほどご大層なものかね。そんなものなくたって、銃弾一発で人は死ぬのにな」
「作家か……俺にはよくわからんスタイルだ。まるで宇宙人にでも遭遇した気分だぜ」
「おっと勘違いするなよ。もちろん火星人はそんなじゃない。ちょうど金星人があんなかんじなんだ」

◆結末

『④ニューヨーク』がこたえたなら、シーンを終了する。

●エンディング4：そして、最大の難事件

シーンプレイヤー：『①フェイト』

◆解説

『①フェイト』のエンディング。テリーズは『トゥールース』シリーズの脚本家として、活躍することになる。彼女は新作脚本によって、再び『①フェイト』に挑戦する。

◆描写

あの事件から、しばしの時が流れた。

キミの事務所のソファの上には、ひとりの女の子が腰かけている。昔からの定位置——また“常連”に戻ってきたのだ。

▼セリフ：テリーズ

「あの時の『①フェイト』さん、すごいまぶしかったです。『①フェイト』さんのまっすぐな言葉が、わたしにスタイルを思い出させてくれました」

「わたしがずっと書きたかった名探偵は『①フェイト』さんなんです。だって、どんな物語の名探偵よりもカッコイイ、わたしの憧れ……なんですから」

「な、なんだか、とてもずかしいこと言っちゃった気がします。わ、忘れてください……」

「そ、そろそろ、『トゥールース』シリーズの放送時間です。実は、今週の脚本はわたしが担当したんです」

「これはわたしから、ニューロエイジ最高の名探偵への挑戦状です。『①フェイト』さん、この謎が解けますか？」

◆結末

DAKの3Dディスプレイが『トゥールース』シリーズのロゴをうつしだす。さあ、名探偵『①フェイト』史上、最大の難事件のはじまりだ。

シーンを終了する。

■ポストアクト

各々のエンディングを演出したならば、経験点の計算等、ポストアクトの準備に入る。エドガー・ディアスターカーを倒していれば[SPS：フーダニットのビジネスを止める（5経験点）]を達成したとみなす。

SPSは経験点5点となる。

ポストアクト後、シナリオは終了となる。



シナリオ運用の指針

●シナリオのコンセプト

『完全なる脚本』はニューロエイジで人気の探偵ドラマ『トゥールース』シリーズの裏側にある脚本家の陰謀を書いた物語である。

このシナリオはプレイヤー人数が2～3人であってもプレイ可能である。シナリオの用意で「ちょっと困った」とき、ぜひこのシナリオをプレイしてもらいたい。

●ミステリシナリオ？

シナリオは「ミステリ作品の裏側」を題材にしているが、「ミステリシナリオ」ではない。

手がかりを集めてプレイヤー自身が推理をするといったギミックなどはない。

その点を誤解したプレイヤーがいると、シナリオの展開にがっかりしてしまうかもしれない。RLはあらかじめこの点を誤解しないよう、プレイヤーに説明しておくとういだろう。

●『①フェイト』について

ストーリーは『①フェイト』にドラマが集約する構造となっている。特に『②イヌ』は『①フェイト』へのコネが与えられており、事実上のパディ導入といえるだろう。

RLはいちばん「TNX」（あるいはTRPG）に不慣れなプレイヤーに、『①フェイト』を選ぶよう、推奨するとよい。そして『②イヌ』にベテランプレイヤーを配し、初心者プレイヤーのサポートをしてもらうのだ。

もちろん、プレイヤーの希望がはっきりしているなら、そちらを優先すること。

●少人数用のバランス調整

このシナリオはプレイヤー2～4人でプレイを想定している。シナリオに書かれたデータは基本的にプレイヤー4人用であるため、それより少ない人数でプレイするためには、データを変更する必要がある。

プレイヤー3人で遊ぶ場合には、以下のバランス調整を推奨する。

▼クライマックス1：ミステリのスタンス

- ・ゲストはキャストの《真実》を打ち消さない。
- ・テリーズはカット進行に参加しない。《チャイ》《ファイト！》を使用しない。（プレイヤー2人で遊ぶ場合には、上記に加えて、更に以下の調整を加える）
- ・シナリオライター（タタラ・トループ）を削除。
- ・洗脳が解かれた後、テリーズは《チャイ》《ファイト！》をキャストのために使用する。

エドガー・ディアストーカー

タタラ◎●、カリスマ、トーキー

▼設定

「金？ 名譽？ そんなものは、私にとってなんの価値もない。私は骨の髄からミステリ作家なんだ」

世界的な作家、脚本家。小説・脚本製作会社フーダニットの創設者。しかしその裏側では、犯罪計画を非合法組織に販売する事業を行っていた。

▼神業

タイムリー■ 神の御言葉□ 暴露■

▼能力値 / 制御値

▲理性：6 / 13 ♣感情：8 / 13
♥生命：2 / 9 ♦外界：8 / 13

▼戦闘データ

[CS] 8 [AR] 1
[防御力] S:2 / P:2 / I:2

▼一般技能

3♣♠♥♦ ★心理
2♣♠♥♦ ★自我
3♣♠♥♦ 交渉

▼スタイル技能

2♣♠♥♦ †弱点看破 (TNX187)
2♣♠♥♦ 演説 (TNX192)
3♣♠♥♦ †ゲシュタルト崩壊 (TNX193)

▼アウトフィット

・MP21.....電:12 / 隠:12 (TNX234)
攻:P+5 受:- 射程:近
・フォーマリティ.....電:15 / 隠:14 (TNX238)
防(S/P/I):2/2/2
・ウェブチャーム.....電:10 / 隠:20 (TNX244)
アクセサリに偽装した小型タップ。
・ATスレイヤー.....電:14 / 隠:13 (TNX245)
精神攻撃で与える精神ダメージに常に+2する。

▼戦闘プラン

セットアッププロセスで〈弱点看破〉を使用。シーン（選択）の対象の与える肉体・精神ダメージに+4する。この効果はカット終了まで持続する。
メジャーアクションで〈心理〉〈交渉〉〈ゲシュタルト崩壊〉の組み合わせで近距離までの対象に精神攻撃を行う。判定値は+2で、ダメージは2+〔差分値ダメージ〕。〈弱点看破〉を使用している場合は6+〔差分値ダメージ〕となる。

ファントムマスク・オリジン

カブキ◎、カブト●、カゲ

▼設定

「俺が死んでも、ファントムマスクの伝説は終わらない……」

エドガーの秘書兼ボディガード。もともとはミトラス戦争で戦う企業軍の強化兵士。退役後は、盗賊稼業で生計を立てるようになる。

▼神業

チャイ□ 難攻不落□ 不可知□

▼能力値 / 制御値

▲理性:7 / 11 ♣感情:5 / 14
♥生命:7 / 13 ♦外界:5 / 10

▼戦闘データ

[CS] 9 [AR] 1
[防御力] S:2 / P:3 / I:3

▼一般技能

2♣♠♥♦ ★回避
4♣♠♥♦ ★白兵

▼スタイル技能

3♣♠♥♦ コミックヒーロー (TNX180)
3♣♠♥♦ †カバリング (TNX191)
3♣♠♥♦ 影化 (TNX208)
4♣♠♥♦ 胡蝶 (TNX208)

▼アウトフィット

・犬牙.....電:18 / 隠:12 (TNX232)
攻:S+4 受:1 射程:至近
投擲可能で、その場合は〔射:近〕となる。
・メタルアーマー.....電:13 / 隠:- (TNX239)
防(S/P/I):2/3/3

▼戦闘プラン

メジャーアクションで〈白兵〉〈隠密〉〈胡蝶〉で至近～近距離の対象に物理攻撃を行う。判定値は+3で、攻撃力は[S+12]。エドガー・ディアストーカーが〈弱点看破〉を使用している場合は[S+16]となる。投擲しても、武器は失われない。
肉体・精神・社会ダメージを受けた場合は、〈コミックヒーロー〉によって〔判定に使用したカードの数字〕点軽減する。1カット1回まで。その際、漫画的な演出を加える必要があり、[BS:衰弱]を受ける。
また、エドガー・ディアストーカーが肉体ダメージを受けた場合は〈カバリング〉によってダメージを引き受ける。1カット3回まで。
〈チャイ〉は防衛系神業として使用する。もしテリースの洗脳が解除されそうになったとき、〈チャイ〉が残っていたのなら、キャストの〈真実〉の打ち消しに用いる。キャストが3人以下の場合は、〈真実〉の打ち消しには使用しない。

テリース

カブキ●、タタラ◎、ミストレス

▼設定

「わたしの考えたトリックは完璧なんです。みんながそれを証明してくれます」

エドガーの教育によって思想をねじまげられてしまった。完璧なトリックによって、悪辣な犯罪をなしとげることこそ、ミステリ作家の喜びと信じている。

▼神業

チャイ□ タイムリー■ ファイト!□

▼能力値 / 制御値

▲理性:4 / 12 ♣感情:7 / 13
♥生命:5 / 9 ♦外界:6 / 14

▼戦闘データ

[CS] 8 [AR] 1
[防御力] S:2 / P:2 / I:2

▼一般技能

2♣♠♥♦ ★自我

▼スタイル技能

3♣♠♥♦ †加速装置 (TNX187)
4♣♠♥♦ †盾の乙女 (TNX189)
2♣♠♥♦ ※勝利の女神 (TNX189)

▼アウトフィット

・フォーマリティ.....電:15 / 隠:14 (TNX238)
防(S/P/I):2/2/2

▼戦闘プラン

カット進行に入ると同時に〈ファイト!〉を使用して、エドガーの〈神の御言葉〉を増やす（キャストが3人以下の場合には使用しない）。最初のセットアッププロセスで〈加速装置〉を使用。エドガーの〔CS〕をカット終了まで+〔判定に使用したカードの数字〕する。
メジャーアクションではエドガーがファントムマスク・オリジンのを対象に〈盾の乙女〉を使用。判定に使用したカードで、即座に一回のメインプロセスを行わせる。
味方が不利な効果を受けたなら、イニシアチブプロセスに〈勝利の女神〉を使用。対象はシーン（選択）、目標値は10。対象の受けているバッドステータスと任意のスタイル技能の効果を回復する。1アクト2回まで。
〈チャイ〉は防衛系神業として使用する。
キャストの〈真実〉によって本心を引き出されると、テリースは正気に返り、戦闘から離脱する。しかし、〈チャイ〉が残っている場合、〈真実〉を打ち消す。
なお、キャストが3人以下の場合、テリースはカット進行に参加せず、〈チャイ〉〈ファイト!〉を使用しない。キャストが2人の場合、洗脳を解かれたあと〈チャイ〉〈ファイト!〉をキャストのために使用する。

シナリオライタートループ

タタラ 5 レベル

▼設定

フーダニットで教育を受けたライター達。よりよい脚本を生み出すため、日々切磋琢磨している。

▼能力値 / 制御値

♠理性：8 / 10 ♣感情：6 / 8
♥生命：6 / 8 ♦外界：7 / 10

▼戦闘データ

[CS] 5 [AR] 1
[防御力] S:1 / P:1 / I:2

▼一般技能

3 ♠ ♣ ♥ ♦ ★射撃

▼スタイル技能

2 ♠ ♣ ♥ ♦ ✦ アドバイス (TNX187)

▼アウトフィット

・MP21.....電：12 / 隠：12 (TNX234)
攻：P+5 受：- 射程：近
・アーマージャケット.....電：12 / 隠：12 (TNX238)
防 (S / P / I)：1 / 1 / 2
・デッドポインター.....電：18 / 隠：14 (TNX240)
マイナーで使用。そのメインプロセスの〈射撃〉達成値に+1。

▼戦闘プラン

味方の判定時、〈アドバイス〉を使用し、達成値を+4する。判定は単独で、目標値が10。【AR】を消費する。迷うようなら、エドガー・ディアストーカーのメジャーアクションに使用するとよい。
そのカットで〈アドバイス〉を使用しなかった場合は、自身のメインプロセスでは攻撃を行う。
マイナーでデッドポインターを使用。メジャーに〈射撃〉で近距離までの対象に物理攻撃。判定値は+1で、ダメージは[P+5]。エドガー・ディアストーカーが〈弱点看破〉を使用している場合 [P+9] となる。

補遺

◆密室殺人トリックチャート

DOC (Draw or Choice)

JOKER	謎の日本人	怪しげな日本人が事件の糸をひいている。ニューロエイジのミステリでは禁じ手とされる。
2	いわくつきの物品	先祖から伝わるなんらかの品。よもやこの骨董品が事件の鍵になっていたとは。
3	試作兵器	メガコーポの試作兵器を使えば、痕跡を残さぬ犯行も可能だろう。
4	ダイイングメッセージ	被害者は犯人に気づかれないよう、巧妙な方法でダイイングメッセージを残していた。それを読み解けるのは名探偵だけだ。
5	サイバーウェア	人の身体に埋まった無数の機械。しかしそれらは容易に主人を裏切り、傷つける。
6	メイド	あの召使いの証言は本当なのだろうか？ 彼女が事件の鍵を握っているのは間違いない。
7	時刻表	交通機関、SSSのバトロール、清掃ドローン……ありとあらゆるものが決められたスケジュールにそって動いている。しかし、その隙間をかいいくることで、不可能を可能にすることもできるかもしれない。
8	薬物	ニューロエイジの薬物は、あらゆるものをあざむく。検出されない、致死性の薬物……実在しないと誰が決めた？
9	ワイヤー	物理トリックの基本中の基本。ミステリ作家達は、ワイヤーを用いてあらゆる不可能を可能にできた。
10	ふたごの入れ替わり	もっとも古典的なトリックのひとつ。ニューロエイジでは、クローン技術のおかげでより手軽となった。
J	狂ったパディ	この住居のパディは、本当に正気を保っているのだろうか。ここに残された記録は偽りのものかもしれない。あるいは家そのものが、主人を殺したのかも……。
Q	イヌの協力者	警察内部のものが偽装に協力している可能性がある。まさか、あいつが……！
K	支配	なんらかの方法で、被害者の行動を操作した。弱みを握ったのかもかもしれないし、洗脳したのかもかもしれない。
A	超能力	多くの人が知らないことではあるが、ニューロエイジでは科学では説明できない能力をもつ人々がいる。もっともコアなミステリファンは怒るかもしれない。

■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。

『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。

本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。

また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。

ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。

シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。

ホームページ (<http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/>) の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。

(このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります)

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

- ① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
- ② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
- ③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎VA THE AXLERATION 投稿型シナリオ共有サイト

NeuroCrowD

投稿シナリオ No.034 『完全なる脚本』

発行日：2017.6.27

執筆（著作権者） あるばがると
イラスト なし

企画 ニューロ／CD製作委員会
DTP まだら牛
素材 Z-design

連絡用メールアドレス：dapple_ox@gmail.com

サイトURL： <http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/>